

第7回 水密化技術検討会 議事録

1. 開催日時 : 平成26年6月3日(火) 13:30~16:50

2. 開催場所 : 日本電気協会 4階 D会議室

3. 出席者(順不同,敬称略)

出席委員: 山田主査(中部電力), 森田副主査(日立 GE ニュークリア・エナジー), 枘幹事(電源開発), 忠田幹事(日本原子力発電), 岩島(中部電力), 岩田(三菱重工業), 楠本(九州電力), 倉員(東芝), 後藤(大林組), 豊嶋(中国電力), 橋本(イトーキ), 舩井(クマヒラ), 松村(電力中央研究所), 米田(北海道電力), 米陀(北陸電力)

(計15名)

代理出席: 青柳(岡村製作所・谷口代理), 花島(ニチアス・中野代理), 長谷川(日本原子力発電・広木代理)

(計3名)

オブザーバ: 小宮山・堀内・斉藤(日立 GE ニュークリア・エナジー), 川崎, 西澤(日本原子力発電), 赤瀬(東京電力), 岩田・中司(東芝), 工藤(関西電力)

(計9名)

欠席委員: 小川(鹿島建設), 川越(東北電力), 仁科(東京電力), 古谷(四国電力)

(計4名)

事務局: 大滝(日本電気協会)

(計1名)

4. 配付資料

資料 7-1 水密化技術検討会委員名簿

資料 7-2 第6回水密化技術検討会 議事録(案)

資料 7-3 浸水防止設備技術指針(案) 浸水防止設備新旧比較(水密扉分)

資料 7-4 工事計画認可申請書 浸水防護施設一覧

資料 7-5 配管貫通部シールに対するチモシェンコの円盤式の適用について

資料 7-6 水密化技術に関連する海外指針類の調査結果

参考資料 1 第40回構造分科会 議事録(案)

5. 議事

(1) 会議定足数確認

事務局より, 代理出席者及びオブザーバ参加者が紹介され, 主査の承認を得た。検討会委員総数22名に対し代理出席者を含めて本日の委員出席者数18名で, 規約上の決議条件の「委員総数の2/3以上の出席」を満たすとの報告があった。

(2) 前回検討会議事録(案)の承認

事務局より, 資料7-2に基づき, 前回議事録(案)が紹介され, 3ページ上段の「浸水量が50cm程度」の記載を適正化することで承認された。

(3) 浸水防止設備技術指針(仮称)の検討について

忠田幹事より, 資料7-3に基づき浸水防止設備技術指針(案)について説明があった。また, 岩田委員より資料7-5に基づき配管貫通部シールに対するチモシェンコの円盤式の適用について, 山田主査より資料7-6に基づき水密化技術に関連する海外指針類の調査結果について説明があった。

対象設備として, 建築関連は水密扉, 機械・電気関連では配管貫通部及び電線管, ケーブルトレイを対象とする。空調ダクトについては, ダクトと躯体との隙間は配管貫通部と同様

の扱いとなることから特出ししないこととした。

浸水防止設備事例集については、次回構造分科会の中間報告で紹介し、附録等で記載するか否かの判断を仰ぐこととした。

チモシェンコの円盤式についても、次回構造分科会の中間報告で紹介し、指針に記載するか否かの判断を仰ぐこととした。

主な意見・コメントは下記のとおり。

- ・「浸水」なのか「溢水」なのか、適確に使用すること。
- ・この指針の冒頭が適用範囲で、耐津波設計技術規程との関係を明記すること。
- ・低水位での漏水を許容するタイプの水門等は適用対象外であることを、適用範囲で明記する。
- ・資料 7-3 の 1/18 頁，【解説 1-1】の「水密扉」の説明で、「扉（扉枠も含む）」は 4/18 頁の解説図 2.2 と整合し、「扉（~~扉枠も含む~~）」とする。
- ・資料 7-3 の 2/18 頁，【解説 1-2】の図で、「浸水防止設備」の枠の内側に「浸水防止機能を有する設備」と記載されているが、この 2 つは同一なので修正する。
- ・資料 7-3 の 4/18 頁の解説図 2.2 は、13/18 頁の解説図 2.8 と同程度のものがよい。解説図 2.1，解説図 2.2 及び解説図 2.8 は、同じタイプのものである方が理解しやすい。
- ・資料 7-3 の 4/18 頁，解説図 2.2 の「有効開口」は、扉の寸法等に変更する方向で検討する。
- ・資料 7-3 の 5/18 頁，【解説 2-2】(5)の「運用方法」は、適当な言葉に変更する方向で検討する。「荷重条件」は、適当な言葉に変更できないか検討する。
- ・資料 7-3 の 5/18 頁，2.1.3 の「実施設計」は、「詳細設計」に変更し、記載も「作成させる」を「作成する」等に修正する。
- ・資料 7-3 の 6/18 頁，【解説 2-4】で、「許容浸水量の判定値 $0.02 \sim 0.50$ ($\text{m}^3/\text{hr} \cdot \text{m}^2$)」の記載表現について、適当な表現を検討する。
- ・資料 7-3 の 9/18 頁，【解説 2-6】「必要に応じて事業者立ち会いによる検査を行うことが望まれる」の記載表現について、適当な表現を検討する。
- ・資料 7-3 の 10/18 頁の解説表 2.1 及び 16/18 頁の解説表 2.2 の「検査」と「検査項目」の列の位置を入れ替える。
- ・資料 7-3 の 16/18 頁，解説表 2.2 の「現地据付工事製作要領書」は「現地据付工事~~製作~~要領書」とする。
- ・資料 7-3 の 17/18 頁，2.4 の「保全管理」は「保守管理」，「保守計画」は「保全計画」に修正する。
- ・「排水目皿逆止弁」のように参考となるものについては、浸水防止設備事例集としてこの指針の附録等で記載することを検討する。

6. その他

- ・6月25日(水)に電力中央研究所で開催される津波・氾濫流水路の見学会について紹介があった。後日、事務局よりメールで参加者を募集する。
- ・次回の水密化技術検討会は、平成26年7月18日(金)13:30～ 日本電気協会4階D会議室で開催を予定する。

以上